

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

大学院学生研究

2017年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	異文化コミュニケーション 研究科	異文化コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 専 攻
研究代表者 (2018年3月現在 のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科・ 異文化コミュニケーション専攻・博 士課程後期課程1年	熊谷 允岐	印
指導教員	所属・職名	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科・ 教授	鳥飼 慎一郎	印
自然・人文 ・社会の別	自然 ・ 人文 ・ 社会	個人・共同の別	個人 ・ 共同 名
研究課題	日本人英語学習者向け語彙学習教材の試験的開発と有効性の検証		
研究組織 (研究代表者 ・共同研究者) ※2018年3月現 在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 博士課程後期課程1年	熊谷 允岐	
研究期間	2017 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 97,910 円 / (採択金額) 100,000 円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は日本人英語学習者向けの英単語集を試験的に編纂し、その有効性の検証を行うことを目的とする。しかし、そのためにはまず英語語彙学習教材の現状を分析し、特徴および問題点を把握することが肝要である。本申請者の知る限り、古くは市販の英語語彙学習教材の妥当性を検証した研究があるにもかかわらず、後続の研究は行われず、必ずしも現在の語彙学習教材の現状を伺い知ることが出来ない。よって本研究では始めに近年日本人高校生が用いるであろう英語語彙学習教材に焦点を当て、語彙およびそれに対応する語義がどのように選定されているかを比較分析することで、当該教材の妥当性検証を行った。本研究成果を提示することで、英語学習者及び現職の英語教員に対し、今後の語彙学習の方向性を考える上での一つの視点を提供することを目指した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[英語語彙学習教材] [一般選抜入試] [TEAP]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1) 研究目的・研究課題

近年 TEAP (Test of English for Academic Purpose) 試験 (以下、TEAP) が導入され、日本人高校生英語学習者は、一般選抜入試 (以下、一般入試) だけではなく、TEAP を利用して大学を受験することが可能となった。それに伴い、英語語彙学習教材 (いわゆる英単語集) も TEAP に焦点を当てたものが出版されるようになった。このような現状下において、本研究では TEAP 対策と一般入試対策用英単語集に選定されている語彙、および語義にはどの程度の共通性、またどのような特徴が見られるかを比較分析する。分析結果をもとに、最新の英語語彙学習教材、つまりは TEAP 対策用英単語集の現状と課題を明らかにする。上記 2 種の試験を併願しうる学習者およびそれに携わる英語教員に対し、今後の語彙学習の方向性を考える上での 1 つの指針を提供したい。本研究では以下の研究課題を設定した。

- (1) TEAP 対策用英単語集と一般入試対策用英単語集との間において、どの程度の語彙が共通語彙として抽出されるか
- (2) 共通語彙のうち、第 1 語義に違いがあるものはどの程度存在し、それらにはどのような特徴が見られるか
- (3) 共通語彙間で、語義の難易度に差はあるか

2) 分析対象

Kumagai (2017) を元に、日本人高校生英語学習者が最もなじみがあるとされる一般入試用英単語集を 1 冊選定した。また現在出版されている、難易度に大きな差が見られないと思われる TEAP 対策用英単語集を 4 冊選定し、計 5 冊の英単語集を分析対象とした。

3) 分析方法

課題 1: 共通語彙の抽出対象は各教材の見出し語 (以下、重要語) に絞り、派生語・語彙コラムなどに掲載されている語彙、また熟語などが含まれている場合は除外した。

課題 2: 共通語彙に含まれる語義を抽出する際は、原則 1 つに限定した。教材内の太字記載の語義、赤字の語義、重要語に付随する例文で扱われている語義などを選考基準とし、これらを「著者の示す優先して覚えるべき第 1 語義」と定義した。

課題 3: 共通語彙における各々の語義に対し、English Vocabulary Profile (以下、EVP) が定めた CEFR レベルを参照した。EVP によって割り振られた CEFR レベルを簡易的に数値化し、語義の難易度が高いほど、数値が高くなるよう設定した。その後分散分析によって、共通語彙間における CEFR レベルに差があるか否かを調査した。

4) 結果および考察

研究課題 1: 一般入試用の教材 1 冊に対する、TEAP 用教材各々の占有率 (二冊間で一致した重要語数 ÷ 総語数) を調査したところ、最大で 53.1%、最小で 12.7% であった。つまり一般入試用の英単語集に対し、最大で約 50% 以上の重要語数が一致した TEAP 用の教材があった反面、最小で約 10% しか一致が見られない教材もあったということである。言い換えれば、半数以上の重要語彙は一般入試用か TEAP 用のどちらか一方にしか含まれていないということになる。各々の教材における重要語数は異なるため、掲載語数が多いほど占有率は高まる傾向にあるが、少なくとも大学入試と TEAP では重要語の選定に開きがあるといえそうである。よって、以上 2 つの試験を併願する学習者は両方の語彙対策をしなければならず、負担が大きくなることは避けられないだろう。

続いて、一般入試用と TEAP 用の教材全 5 冊間における重要語の占有率を確認すると、全教材に共通して出現する重要語は 139 語、占有率 3.9% と非常に低く、一方全体の 43%、すなわち 1525 語の語彙は、どれか一冊の教材にしか選定されていないことがわかった。言い換えれば、少なくとも 139 語の語彙はすべての教材において重要だと見なされている語彙であると言える反面、その語数は非常に少ない。このように占有率が低い原因としては: a) 元々の教材における掲載語数の違い: b) TEAP と一般入試で重要語とされる語彙が根本的に異なる: c) 分析教材数を増やすほど占有率が下がる: などが考えられる。確かに森田 and Cook (2016) や山口 (2017) の指摘するところに依れば、TEAP は一般入試に出題されない語彙も多いため、上記 b) の原因は大きいと言える。しかし全 5 冊の教材中、4 冊は TEAP 対策の教材であり、共通の目的・難易度で編纂されているものであれば、自ずと共通語彙は増加するはずであり、それは石川 (1998) も指摘するところである。そうだとすれば、この占有率の低さは何によって生じているのか。そこで本著者は、TEAP 教材間でさえ、選定されている語彙に大きな開きがあると仮定し、TEAP 対策用教材 4 冊間の重要語占有率を割り出した。するとやはり 4 冊共通で出現する語彙は 157 語、占有率は 4.9% と低かった。また、どれか 1 冊の教材にしか選定されていない語彙は全体の 56.7% にも及び、共通目的をもった教材でさえ、語彙選定の基準には大きなばらつきがあることがわかった。この点は石川 (1998) が問題視していた通りであり、時を経た今でさえ、この問題点は依然として残っていると見えよう。ただし、TEAP 用英単語集の選定語彙にばらつきがある最たる原因には TEAP の過去問が公開されていないことにある。TEAP の英文データを手入手することが困難であるため、コーパス化が出来ず、現時点においては各々の著者独自の英文データ、語彙リストあるいは彼らの勘や経験から選定されているのである。

研究成果の概要 つづき

Simpson and Ellis(2010) も主張するように、教員・研究者・著者などの経験や勘も必要であるが、コーパスのような多量のデータと組み合わせることで語彙選定は初めて精緻化され、彼らの経験や勘が正しかったかどうか証明される (Martinez & Schmitt, 2012)。それらを考慮すれば、TEAP 用の英単語集は発展途上であり、今後より精度の高い語彙選定が必要であるのはいうまでもない。

研究課題 2 : TEAP 用と一般入試用英単語集における共通語彙は 139 語であったが、その中で第 1 語義に違いが見られたものは 109 語であった。逆を言えば、30 語に関しては全ての教材で全く同じ語義が採用されているということである (例 : *abstract*; *contradict*; *grain*)。これは各々の著者の見解が一致していることを表しており、出題される語義には一貫性があるといえよう。一方、教材間において差異が見られた第 1 語義の特徴には、以下のよう 4 種類が見られた :

1. 品詞が同じで、語義も文脈に比較的左右されないもの
2. 品詞が異なるが、語義は文脈に比較的左右されないもの
3. 品詞は同じだが、語義は文脈に大きく左右されるもの
4. 品詞が異なる上、語義も文脈に大きく左右されるもの

つまり、選定されている語彙だけではなく、優先的に覚えることが推奨されている語義の多くにもばらつきがあるということである。言い換えれば著者の見解が一致しておらず、出題される語義には一貫性がないと考えられる。加えて言えば、学習者が優先して覚える第 1 語義にも違いが出てくるということである。このような事が生じた場合、憂慮される点がインプット上の語彙エラー (磐崎, 2016) である。語彙エラーには二種類あり、誤った統語解析により生じるものと、意味の優越性により生じるものがある。前者は優先して記憶した語義の品詞に縛られ、文意を誤るもので、後者は特定の語義が他の語義よりも優位性をもって記憶されているため、語義の解釈を誤るものである。つまり教材間で語義に一貫性のない語彙は、実際の出題を想定した場合、どのような語義で文脈に登場するかが一定ではないため、第 1 語義を記憶しただけでは語彙エラーが生じる可能性が高まると考えられる。特に多義語の困難性は古くから指摘されおり (牧野, 1969)、元来語彙の持つ意味は一つではない事が多い (投野, 1997) ため、学習者は教材間で異なる語義が採用されている語彙、特に多義語に対して注意を払わなければならないだろう。このような語彙は前に記した 109 語中 80 語にも及び、決して軽視のできない点であることは言うまでもない。

因みに語義を比較した際、TEAP あるいは一般入試のどちらかにのみ特徴的である語義はほとんど見られなかった。これは共通語彙以外の部分で特色のある語彙が出題されることを意味しているのだろう。

研究課題 3 : 語義の難易度を比較する際に分析対象となった語彙は共通語彙 139 語中 119 語であった。これは該当語義が EVP により検索出来なかった語義があるためである。分散分析の結果、共通語彙における語義の難易度には差がなかった ($F(4, 590) = 0.020, n. s.$)。この結果から、同じ語彙にも関わらず、どちらかの試験の方が難解な語義を要求するということが全体としては多くないと推測できる。ただし、個々の語彙によっては語義難易度に差がある場合があったため、そのような語彙には注意を払いながら学習を進めることが肝要であろう (例 : *institution* 「機関 : B2」 「制度 : C2」)。

5) 結論と提案

第一に学習者及び教員は、最新の英語語彙学習教材が同じ目的で編纂されていたとしても、語彙の選定には未だばらつきが見られ、それらには恣意性が少なからず孕んでいることを認識しなければならない。TEAP の受験を志願する学習者に対し教員は、その点に留意し学習させる語彙を選択し示すことも必要だろう。また同時に、優先的に覚えるべき語義も教材によってばらつきがあることを、語彙エラーを避けるためには念頭に置かねばならない。

第二に本研究では大学入試と TEAP では重要語の選定に開きがあることを認識に置きつつ、全ての教材 (5 冊) で出現した語彙 139 語を「最重要語彙」、4 冊の教材で出現し、かつ大学受験用と重複した 482 語を「重要語彙」とし、計 621 語を「TEAP および一般入試において優先的に覚えるべき語彙」と提案したい。当然ながら TEAP に関しては、コーパス化が進まない現状においてこのような提案をすることには多くの問題点を孕んでいる。つまり共通語彙が果たして実際の TEAP 試験および一般入試の両者において頻出する語彙か否かは未だ明らかではないからである。しかしながら現行の教材間において、異なる基準や観点から編纂されているにも関わらず、少なからず共通語彙が抽出されたことは事実である。よって現状下でこれら語彙を優先的に覚えることに必ずしも価値がないわけではない。このように語彙に重み付けをすることで、「これら語彙は両方の試験に出る語彙かもしれない」という気づきを学習者や教員に与え、語彙学習や語彙教授に緩急を与えられる事が期待できるからである。本研究が学習者および教員の方々にとって少しでも有用な指針となれば幸いである。

※この (様式 2) に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書 (A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式) を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

熊谷允岐. 「TEAP 用英単語集と大学入試用英単語集の比較分析-選定語彙と語義難易度に焦点をあてて-」『異文化コミュニケーション論集』第16号, 2018年, 37-48頁.

④学会発表

「TEAP 用英単語集と大学入試用英単語集の比較分析-選定語彙と語義難易度に焦点をあてて-」2018年3月3日, JACET 英語語彙・英語辞書・リーディング研究会合同研究会 (口頭発表), 早稲田大学.